



2018年 カトリック札幌地区平和旬間

平和を祈る 10 日間 写真速報

平和旬間実行委員会

2018.09.02

教皇ヨハネ・パウロ二世は、1981年の来日時、広島平和アピールの中で「国境や社会階級を超え、お互いのことを思いやり、将来を考えようではありませんか」「再び戦争のないように力を尽くそうではありませんか」と訴えられました。

これに答え、広島原爆の日の8月6日から、9日の長崎原爆の日を経て太平洋戦争敗戦の日となった15日までの10日間を『平和旬間』と制定し、平和を求め、その思いを具体的な行動で示してゆく期間としています。

札幌地区では、毎年この間に『平和講演会』『平和祈願ミサ』『平和行進』などを行い、カトリック、プロテスタント、そして市民の方々と共に平和の実現に取り組んでいます。

平和講演会



「日本国憲法と平和といのちの尊さ」

講師：島蘭 進さん／上智大学神学部特任教授・グリーンケア研究所所長
7月28日（土）13：30～ 参加者：95名

○戦後73年、現政権は「戦争のできる国」を目指し「改憲」加速の今、明治維新来の戦争といのちが軽んじられた体制がどのように作られ強化されたかをお話しいただいた。

○天皇は神である「国家神道」と日本は天皇によって成り立っているという「国体」、この宗教的信念によって、人々は「教育勅語」や「軍人勅諭」を通し天皇の命令に臣民として従い生きることの絶対性を教えられた。

○悲惨な沖縄戦があっても原爆投下まで頑強に戦争を続け、多くの命を粗末にした「国体護持」と「天皇信仰」は恐ろしい。

○来年、天皇の「代替わり」に一連の神道行事が行われる。これは「宗教行事ではないか」に対し、政府は「内容を変えたので宗教意味が減った」と言うがどうだろう…やはり宗教的行事だろう。

○「戦争放棄9条」と「個人としての尊重13条」…これらは、戦争が人々のいのちを軽んじたことを忘れてはならない。「思想・良心の自由19条」と「信教の自由20条」…かつて信仰を押し付けられた痛切な経験を憶えておいてほしい。

○今も「戦前回帰が日本の正しい姿」と主張する声は上からだけでなく、共鳴する民衆の声も聞こえてくる。

○私たちは「平和、個人のいのちと自由」を守り通すため、しっかりと歴史を直視した考えを語り、立ち向かわなければならぬだろう。



平和祈願ミサ

8月15日(火) 18:00~

カトリック北一条教会

司式・説教 勝谷 太治 司教・司祭団

参加者 200名



=説教から=



司教団が「憲法改正」や「死刑制度」への反対を表明すると、常に匿名のひどい口調の抗議が寄せられる。自分の正義を主張し、他人の考えを封じることは正義ではないが、教会内の誰もがそうした傾向を持つことを反省すべきである。

その上で、修道女らが、東京・新宿駅前で歌を歌いながら憲法9条を守るための署名活動を行ったことや、広島・長崎での行進が歌や祈りの内に行われていることを紹介したい。

自分らの主張を一方向的に叫ぶのではなく、「私たちはこう考えるが、一緒に考えていこう」という「対話の姿勢」による取り組みへと変えていく必要がある。

今後の平和行進のためにも「キリスト者としてもとめられている行動」を議論してほしい。



平和の折鶴奉納

道内各教会・修道会から奉納された、平和の祈りを込めた折鶴は以下に発送しました。

広島平和公園←山鼻教会、月寒教会、北26条教会、小樽教会
真駒内教会、小野幌教会、江別教会、手稲教会

長崎原爆慰霊碑←北見教会、円山教会、花川教会、大麻教会
新田教会、聖心会札幌修道院

沖縄・平和の礎←北11条教会、岩見沢教会、札幌マリア院
北広島教会、北1条教会花川マリア院

ミサ献金 60,000 円は、島園進さん(平和講演会講師)の意向により宗教者災害支援連絡会に贈りました。

平和行進・祈りの交流

8月15日(火) 19:20~

あいにくの雨天のため中止となりましたが、「キリストの平和」の実現を求める祈りであるこのコールは」は大切にしたいと思います

戦争のない世界をつくろう！

平和憲法を護ろう！

地上から核兵器をなくそう！

沖縄から基地をなくそう！

原発をなくそう！

外国人の人権を守ろう！

働く人の権利を守ろう！



カトリック札幌地区
平和行進

ひとりひとりが大切にされる平和な世界をめざして

the Catholic Diocese of Sapporo

今迄の横断幕がボロボロとなり、新しいロゴとともにリニューアルしました。